

JHFREPORT



2016年を迎えて

フライヤーの皆さんにとって2015年は空・地上ともに充実した年だったでしょうか。また2016年を迎え、どのようなフライト目標を立てたのでしょうか。気象条件に恵まれ、それぞれの目標を達成できますように。ただし、頑

張り過ぎは禁物です。無理をせず安全第一でフライトを楽しんでください。

2015年6月総会で選任され、JHFの舵取りを任された理事・監事8人も張り切って活動しています。各人の今年の抱負を述べてもらいましょう。

会長 内田 孝也

議員立法によるドローン規制に脅威を感じ、2016年はフリーフライトを守るための三つの自主規制を再び確固たるものにする年にしたいと思っています。事故が法規制につながることをないよう、他団体とも協力して対策に取り組めます。

副会長 安田 英二郎

昨年はモーターの事故が多発しました。会員でない方の事故が多いですが一般の方には会員と非会員の区別はつきません。ドローン規制も始まるなか、事故報道がスカイスポーツ全体に与える影響を考えると今後は非会員も含めた安全対策を考える必要があるようです。

理事 芦川 雄一郎

昨年は航空関連の事故が多く、ハング、パラも重大事故が多数発生して、残念ながら10名を超す死亡者を出す事となりました。

異常気象の定常化、自然への謙虚さの欠如等、原因は様々ですが飛び続ける環境を作って行くのはフライヤー各人の行動にかかっています。ドローンの事例を見ても明白な様に、一度重大事件を起こせば規制されて、自由にフライト出来なくなってしまいます。

年初に安全フライトと好天を祈念します。

理事 市川 孝

JHFの基本理念である自由なフライトの確保のため、事故の多発する現状への対策は、行政府や法律による規制を排除するために、重要な施策となります。今後も安全性の向上を、さらに進めるための取り組みを展開したいと思います。



パラグライディングアキュラシー日本選手権inGETOより。川村眞選手がパッドを踏み。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

理事 大澤 豊

昨年は事故も多い年でした。安全についてあらためて対策を考えていきたいと思います。

競技では、世界で活躍している選手もいます。競技が盛り上がるように、安全、公平な大会運営ができるように協力したいと思います。

理事 日下 敏彦

パラ振興に少しでも役立てればと、白石エリアでJリーグ開催に向けて準備中です。諸先輩がたの苦勞が身にし

みてわかりました。手始めに2016年4月にプレJリーグ大会「お花見CUP」を開催します。居ながらにしてフライヤーの皆さんの話が聞ける良いチャンスで有難いです。

理事 塩坂 邦雄

初フライトの感動を忘れずに、「フライヤー宣言」を確認していただき自由に空を飛べるように努力いたしましょう。フライヤーも社会の一員として自覚を忘れず地域との交流・自然との共存を心がけましょう。

監事 岩村 浩秀

昨年は、公益社団法人認定を受けた後初めて内閣府の立入検査を受けました。結果的には、重要な指導勧告事項もなく終了したことをここにご報告いたします。

また、昨年は重大事故が続きJHFとしても対策が急がるところであります。皆様におかれても常に安全第一を心掛け、楽しくフライトを続けられますようお祈り申し上げます。

JHF 常設委員会の次期委員を募集

求む、仲間のために頑張りたい人！

JHFには下記の常設委員会があり、委員たちはハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会の委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、2016年度・2017年度の2年間を任期とする委員を募集します。

JHFはこんな活動をすべきだ、大切な空の仲間のために何かしたいと思っているあなた、ぜひ立候補してください。委員としてJHFの事業推進に力を貸して下さるようお願いします。

以下、各委員長からのメッセージです。

ハンググライディング競技委員会

当委員会では、ハンググライディング・スポーツの発展に寄与することを目的とし、日本国内の大会ルールの整備・公認・管理および世界選手権等への日本チームメンバーの選考を行っており、競技人口の増加と選手の育成も行っています。

国内のハング・シリーズ大会は現在の5～6戦をもう少し増やしたいとも考えています。

ハングが好きで競技も楽しみたい、もっと飛びたい、もっとレベルを上げたいっ！と熱意のある人を募集しています。

パラグライディング競技委員会

パラグライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に日本に

おける大会の公認・管理・支援、ならびに国際大会への日本チームメンバーの選考を行っています。また、毎年改訂される国際ルールであるスポーティングコードS7に合わせながら、国内競技ルールの改訂・作成を行っています。

競技人口を増やすために、斬新なアイデアを持っている方の参加を歓迎します。

教員・スクール事業委員会

当委員会では「教員、助教員の育成」「教員検定員研修及び検定」「教本の作成改訂」等を主たる活動として行っています。将来のパイロットを育成するインストラクターの質を向上させ、パイロットの皆さんが安全にフライトできる指導環境を作っていきたいと思います。

最近の事故状況を考えて、今後は指導者の新たなレベルアップをしていただけよう活動してまいります。将来の指導者育成環境と一緒に作っていただける新たな委員の参加をお待ちしています。

補助動力委員会

次年度、行動ある補助動力委員会を進めるため、情熱ある委員を全国から求めています。

DVD教本作成、MPG全国エリアマップ作り、トーイング教本検討会、MPG安全活動など、充実した委員会活動を予定しています。あなたも一緒に参加してみませんか？

制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFが法律や定款に抵触しないよう留意し、活動を行っています。

[活動の概要]

- ・理事会の諮問に応じて規程、規約等の案、または改定案を作成する
- ・すべての委員会と連携を取り、新たな制度案や規程案、規程の見直しを理事会に提言する

[制度委員会に向いている方]

- ・パラ、ハングで空を飛ぶことが大好きな方
- ・文章を細かいところまで読み込み文章作成が得意な方
- ・パソコンメール、スカイプなどで会議ができる方

安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に、安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、使用機材の技術的な審査、情報収集・分析を行い、また、事故の調査、情報収集、分析を行い、そのほか、安全性にかかわる事案の分析・情報発信を行っています。

これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集いたします。

ハングパラ振興委員会

「振興委員会」という名称からJHFの広報を担当する委員会のような印象を持たれている方は多いと思います。

無闇に宣伝してもフライト人口は増えません。当委員会では、フライト人口の維持すなわち、現在飛んでいる人(学生、社会人、シニア)が安全に永く飛び続けるために有用な情報提供等を他の委員会と連携して進めてゆきます。アイデアをお持ちの方のご参加をお願いします。

なお、このスポーツのファン層を増やす上で重要な広報活動は、JHF広報に協力する形で取り組みます。

役員選任実行委員会

その名のとおり、JHF役員選任規約に基づき、役員選任の事務を実施する委員会です。

委員改選にあたり願うことは、規則に則りながらバランス感覚の優れた人に、次期委員会を担っていただきたいということです。JHFは多様な人材の集まりであり、協調してよりよい活動を続けるために、JHF会員はもとより社会にも広く理解の得られる人に活躍して欲しいと思います。

応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール(ファイル添付)、ファクス、郵便などでお送りください。応募用紙は、JHFウェブサイトのTOPICS、『JHF委員会委員を募集します[1月12日]』からダ

ウンロードしてください(ワードファイル)。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

- 応募締切日：2016年3月7日
- 選任：理事会で選任を決定
- 任期：2016年4月1日～2018年3月31日
- 定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他は原則5名
- その他：委員会活動には、交通費(実費)と日当(5,000円)等が支給されます。

不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。

TEL. 03-5834-2889

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

JHFの動き

ハンググライディング日本選手権を3月17日から茨城県で開催します

1月1日から新しい競技シーズンが始まりました。JHFでは、ハンググライディングのクラス1とクラス5、パラグライディングのクロスカントリーとアキュラシー、四つの日本選手権を地元都道府県連盟の力をお借りして開催していますが、まずクラス1の日程が決まりました。

3月17日(木)～21日(祝)の5日間、茨城県板敷山フライトエリアで「2016ハンググライディング日本選手権in板敷山スプリングフライト」を開催します。これまで数々のビッグフライトの発進地となってきた春の板敷。スケールの大きな競技に期待しましょう。



2年前に板敷山で開催の日本選手権は大門浩二が優勝。

モーターパラの安全講習会を開催準備中です

2015年はモーターパラグライダーの重大事故が6件も発生しました。JHF安全性委員会と補助動力委員会では、事故対策として「モーターパラグライダー

パイロット安全講習会」開催の準備を始めています。

まず、エリア管理者や地域の指導者に講習を実施していただくための教材作りからスタートしました。

講習内容は、事故情報、事故防止策、航空法による飛行制限、基本的な技術などです。

安全講習会の日程、詳細が決まったら、JHFウェブサイト等でお知らせします。お気軽にご参加ください。

第4回フォトコンテストにご応募ください

今年も「JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト」を開催します。

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが、写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催してきました。第4回となる今回も、ハンググライディング、パラグライディングの楽しさを伝えられ



前回フォトコン最優秀賞、加藤文博さんの「眩い空」。

るような作品を募集。多くの方々からのご応募をお待ちしています。

応募締切は9月1日(木)、JHF事務局必着。応募要項など詳細は、決まり次第JHFウェブサイト/JHFレポートでお知らせします。今から傑作を撮りためて、ぜひご応募ください。

東日本大震災被災地への義援金をあしなが育英会に託しました

東日本大震災から5年が経とうとしていますが、被災地では今も厳しい状況が続いています。

JHFでは、空の仲間だけでなく、いつもフライトを暖かく見守ってくださる地域住民の方々が一日も早く平穏な暮らしに戻れるようお願い、被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」を展開しています。その一環として、全国のフライヤー、正会員(都道府県連盟)、スクール、クラブ、競技会参加者から義援金を募ってきました。ご協力くださった皆さん、ありがとうございます。

2015年12月、約1年間にお預かりした義援金25,000円を、東日本大震災遺児を奨学金や心のケアプログラムなどで支援する民間非営利団体「あしなが育英会」に託しました。

今後も引き続き義援金を募っていきますので、さらにご協力いただければ幸いです。振込先は16ページをご覧ください。

県連だより

■安全セミナーを開催

石川県フライヤー連盟

11月15日（日）に石川県フライヤー連盟主催で安全セミナーを開催しました。いつもは地元の獅子吼高原パラグライダースクールの山口さんからアドバイスを指導をいただいておりますが、たまには別のインストラクターからお話をさせていただくことも多面性があるという事で、講師にはJHF安全性委員会の伊尾木さんに来ていただきました。参加者は講習生からパイロットまで総勢41名。当日は、冬型の気圧配置で、北陸では外の天気が気にならない絶好の講習日和だったせいか想定以上に集まりました。

午前中は、春に行われたJHF主催セミナーの資料をもとに最近のグライダーの基本情報・傾向、事故の傾向などの講義をひとつおとり。午後は、リアルで刺激的な動画の解説や伊尾木さん流のフライトテクニック、ハーネスセッ

ティングの大切さとフライト姿勢の関係などの解説。その後、シミュレーターを使ってハーネスの設定やフライト姿勢の確認など、いつもはなかなか確認できていないことや、疑問に思っていることもいろいろと真剣に話し合っており、予定時間を軽くオーバー。

参加者それぞれが「安全・危険」について事例や理論を正しく理解することの大切さをあらためて学び、自らのフライトや安全についての意識に何らかの気



ハーネスセッティングの大切さを皆で確認。

づきがあったと思います。動画は講習生には少し刺激が強すぎたかもしれませんが……大変有意義な一日でした。

なかなか県連単独では開催が難しかった中で、快く講師を引き受けていただきました伊尾木さん、企画段階から資料の送付までお気遣いいただきましたJHF事務局の桜井さん、獅子吼高原パラグライダースクールの山口さん・小川さん、皆さんご協力ありがとうございました。

（石川県フライヤー連盟 太田 晃）



伊尾木さんと参加者一同。有意義な一日でした。

学連ニュース

新人戦報告

1位 好井 泉二 千葉大学

2位 橋本 快 山形大学

3位 （同率3人）

吉田 滉平 弘前大学

門ノ沢達也 東北芸術工科大学

首藤 祐樹 山形大学

今回の新人戦は、11月7日、8日の2日間にわたり開催され、弘前大学、福井県立大学、千葉大学、日本大学、東京工業大学、山形大学、東北芸術工科大学の7大学から、総勢18人の新米フライヤーが参加しました。

新人戦はその名の通り、初飛びしてから2年以下のビギナーの選手が集まり大会を行います。普通の大会と違うのはデュレーションやレースではなく、テイクオフ、ランディングの安全性を競いあうことです。

初日は当初、東から北東風という開催地の十分一山にとっては悪いコンディションが予測されました。しかし、当日は午前中のうちは逆転層により本流がなかなか入らない状態であり、テイクオフ場は微風の南から南西風で、

大気も安定した初心者向けのコンディションになりました。

選手の皆さんは最低でも1本飛ぶことができ、なんとか大会を成立させることができました。その他にも応援に来た数人が風が強くなってからのフリーフライトで30分以上飛ぶことができ、当初の予想よりも良いコンディション



気象条件が好転し選手は皆飛ぶことができた。



ランディングの安全性も競技のポイントに。



多くの方々の応援をいただき大会は無事成立。

になりました。

2日目は朝から雨で飛ぶことができませんでしたが、テイクオフ場の掃除や学科を行い、大学間を超えた深い交流ができました。

多くの企業や地元の皆様、スクールの金井様のご協力のもと無事に大会を運営できました。この場で改めてお礼申し上げます。本当にご協力ありがとうございました。

日本学生フライヤー連盟（JSFF）はパラグライディング／ハンググライディング学生リーグを展開しています。詳しくは<http://jsff.org/>で。

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF 活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHF では二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用

しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF 安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHF が登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登

録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHF として実態を掌握することを目的としています。

型式登録機					
登録番号	PI-1090～1093	PI-1094～1099	PI-1100～1104	PI-1105～1109	PI-1110～1114
登録年月日	2015年10月21日	2015年10月21日	2015年10月21日	2015年10月21日	2015年10月21日
製造者	OZONE	OZONE	OZONE	OZONE	OZONE
製造国	イギリス	イギリス	イギリス	イギリス	イギリス
型式	M6	RUSH4	SWIFT4	MOJO5	ATOM3
認証	EN	EN	EN	EN	EN
クラス	D	B	B	A	A
飛行総重量 (kg)	65～120	55～130	55～115	55～130	49～125
輸入者名(販売者)	ファルホーク	ファルホーク	ファルホーク	ファルホーク	ファルホーク
URL	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp

機材情報登録機						
登録番号	P-0100～0103	P-0104～0108	P-0109～0112	P-0113～0117	P-0118～0119	P-0120～0124
登録年月日	2015年12月4日	2015年12月4日	2015年12月4日	2015年12月4日	2015年12月4日	2015年12月4日
製造者	Sky Paragliders	Sky Paragliders	Sky Paragliders	Sky Paragliders	Sky Paragliders	Sky Paragliders
製造国	チェコ	チェコ	チェコ	チェコ	チェコ	チェコ
型式	FIDES 5	ANAKIS 3	ATIS 4	ARGOS	METIS 3	APOLLO
認証	EN/LTF	EN/LTF	EN/LTF	EN/LTF	EN/LTF	EN/LTF
クラス	A	B/A	B	C	B/T	B
飛行総重量 (kg)	58～130	55～125	60～130	65～120	110～220	55～125
輸入者名(販売者)	オフィスムーン	オフィスムーン	オフィスムーン	オフィスムーン	オフィスムーン	オフィスムーン
URL	www.acb-aviation.com	www.acb-aviation.com	www.acb-aviation.com	www.acb-aviation.com	www.acb-aviation.com	www.acb-aviation.com

安全飛行のために健康であること

JHF安全性委員会

体が健康でなければ、飛ぶ気にもなれず、安心してフライトすることができません。日頃の健康管理の大切さを、最近起きた重大事故と健康の関係も含めてお伝えしたいと思います。

健康管理は機長の務め

あなたはフライトエリアに出かける前やフライトの前に、体の声に耳を傾けていますか？ ちょっと頭が重いか少し疲れ気味だとか感じていても、よほど体調が悪くない限り「せっかくの休日、飛ばばスッキリするさ」と飛んでしまうのでは？ 気象条件が良ければなおのこと。しかし、あなたはあなたのパラグライダー・ハンググライダーの機長です。安全飛行を続けるために、自分自身の健康管理をおざなりにするわけにはいきません。

フライトの前に機材や気象条件を慎重にチェックするように、ご自分の体についてももしっかりチェックしてください。もちろん、日頃から健康に気をつけて生活することが大切です。

体のことは二の次だったという人もエリアに出かける前に／テイクオフに上がる前に、必ず下記をチェックする習慣を身につけましょう。

□日頃と変わらない体調か？

(熱が出ていないか／風邪をひいていないか？ など)

冬は特に、風邪の予防をしっかりしましょう。風邪をひいている場合にはフライトは自粛します。適切な判断ができない可能性があり、本人の体調悪化にもつながる恐れがあるからです。

風邪予防には……

- ・うがい、手洗いを欠かさない。
- ・十分な栄養と休養をとる。
- ・夜更かしをしない。
- ・薄着しない。
- ・外出時にはマスクを着用する。

□薬を服用していないか？

眠くなる恐れがある成分が含まれるのは、風邪薬だけではなくありません。塗り薬も含め、服用時は医師や薬剤師によく確認してください。少しでも疑わしい場合、薬を服用しているとき／服

用したあとしばらく（何日も影響が残ることがあります）は、フライトを自粛しましょう。

□健康サプリメントの影響はないか？

健康サプリメントは、基本的に体調を悪くさせるものは無いと思われるのですが、近年、問題になっている競技選手のドーピングでは、普段口にしているサプリメントでも影響を及ぼすリスクがあると言われています。

フライトにおいてサプリメントの影響がどのように出るのか、出ないのかは、まだわかりません。成分等を十分に把握しておくべきでしょう。サプリメントだけでなく、漢方薬も同じことが言えます。

クモ膜下出血による重大事故

2015年10月に起きたパラグライダーの重大事故について「フライト中にクモ膜下出血により意識喪失、死亡に至る」という検証結果が出されました。

この事故原因は、フライト軌跡データとパイロットが取り付けていたアクションカメラで撮影された動画も参考に、医師によって明らかにされたものです。

テイクオフはリバースで立ち上げ、ごく普通にテイクオフ。パイロットはEN-Cクラスの機体を操る、経験25年以上のベテランでした(当時66歳)。約25分ソアリングし、突然、クモ膜下出血により体の力が抜けた状態になり、両手はブレークトグルに引っかかった状態で、姿勢は少し傾き頭部はキャノピーを見るような感じで、その後も緩やかな旋回で数分間飛び続け、最後はツリーランをしました。途中でいびきのような音が入っていたので、呼吸はしていたと思われます。いわゆる意識不明の呼吸あり状態であり、救助は山頂付近でもあり時間を要し、救助ヘリとパイロット仲間で見場まで行き対応したそうです。

クモ膜下出血はどんな病気か

フライト中にクモ膜下出血を起こしたケースは、この事故だけではなくありません。至って頑健と胸を張るあなたも、

クモ膜下出血について知っておいてください。

【クモ膜下出血とは】

クモ膜下腔（脳の表面は、軟膜・クモ膜・硬膜という3層構造になっており、クモ膜と軟膜の間の空洞部をクモ膜下腔という）が出血した病態の総称です。

脳卒中は日本人の死因の第4位、年間11.3万人が死亡する病気(厚生労働省：2014年人口動態統計の年間推計より)であり、クモ膜下出血は脳卒中死亡の10%強(厚生労働省：脳卒中ってどんな病気？より)と言われています。

【原因】

出血の原因としては、脳動脈瘤の破裂によることが最も多く、ほかには脳動静脈奇形からの出血、事故や転倒などによる頭部の外傷などがあります。

〈脳動脈瘤の破裂〉

脳動脈瘤とは脳の血管の一部が膨らみコブができる状態のことです。元々の血管異常や高血圧や血流が影響してできるとされ、40～50代に多いと言われています。膨らんだ部分の血管は引き伸ばされて薄く・弱くなってしまい、結果的に破裂しやすい状態となります。

〈脳動静脈奇形からの出血〉

脳の血管の発生異常によって、正常ではない血管の形をとっているのが脳動静脈奇形です。そのため、脳動静脈奇形は正常な血管を持つ人に比べ破裂などで出血しやすい状態にあります。発症する時期としては、若年者(30代)が多いとされています。

【症状】

〈脳動脈瘤の破裂〉

多くは「ハンマーで殴られたような強烈な痛み」と表現されるほどの、今までに経験したことのないような突然の激しい頭痛が起こります。また、吐き気やおう吐、意識を失うなどといった症状を伴うことが多いです。出血量や部位によっては軽い症状で済むこともあります。後遺症が残ったり、最悪の場合そのまま死に至るケースもあります。

〈脳動静脈奇形からの出血〉

けいれん発作が最も多く、出血の部位によっては頭痛や吐き気、意識障害

などの症状が現れ、その症状は様々であるとされています。

【後遺症】

出血した部位や出血量、発症後から治療に至るまでの時間などによって、症状や後遺症も様々です。軽度な場合は、治療後も今までと同じような生活を送ることもできますが、中には体のどこかに麻痺が残ったり、言葉がうまく話せない、言葉の理解がうまくできない、食事を上手に飲み込むことができない、視野が狭くなる、空間認識がうまくできない、記憶障害や意識障害などといった後遺症が残る場合もあります。

【前兆】

クモ膜下出血は、基本的に何の前触れもなく発症時に症状が現れるとされているため、突然死として有名な病気でもあります。

では、出血するまでどうすることもできないのでしょうか。

脳動脈瘤や脳動静脈奇形により脳神経や脳組織が圧迫されるため、数日前からの血圧の乱れ、違和感のある頭痛やめまい、吐き気やおう吐、けいれんといった症状が前兆としてみられることがあります。

もともとクモ膜下出血の危険因子（喫煙・高血圧・高コレステロールなど）がある方や、上記の前兆が少しでも見られた場合は、すぐにかかりつけの病院などで受診することをお勧めします。

【予防方法】

〈健康診断・脳ドッグを定期受診〉

元々の血管異常や血流の変化などによって脳にできたコブは、外から見えない分発見しづらい状態であると言えます。また、異常があっても発症するまでは無症状であることも多く、発症してから気付くというケースも少なくありません。

そのため、コブや血管異常がないかを早期に発見するために、定期的な受診は重要な予防法だと言えます。

〈危険因子を取り除く〉

クモ膜下出血の危険因子として、喫煙・高血圧・総コレステロールの上昇などが挙げられます。

●喫煙

喫煙による体への悪影響は多く報告されており、中でも脳血管への影響はクモ膜下出血を引き起こす大きなリスクとされ、禁煙を心掛けたほうが良いとされています。

●高血圧

高血圧は、脳の血管に高い圧力がかかる分、血管破裂のリスクも高まるとされています。高血圧を改善するには、食生活の改善や適度な運動などが良いとされています。

●総コレステロールの上昇

コレステロール値の上昇は高血圧や動脈硬化の危険因子とされており、結果的にクモ膜下出血などの脳卒中を引き起こす原因となり得ます。コレステロール値は、食事や生活習慣、適度な運動で改善することができます。

また、ほかにも大量飲酒・肥満・糖尿病などもリスクとしてあげられ、生活習慣の改善はとても重要な予防法であると言えます。

事故につながるのは、技術的なことばかりではありません。機長としての自覚を持って、自分自身の健康管理もしっかり行い、楽しく安全にフライトを続けてください。

*クモ膜下出血について下記を引用／参考にさせていただきました。

<http://www.ishamachi.com/?p=6955>
株式会社メディウィル(Mediwill Co.,Ltd.)

みんなの保険をなくさないで！ 第三者賠償責任保険について

他人に与えた損害を償う保険

ハンググライダー、パラグライダーを行うとき「フライヤー宣言」の精神に基づいて行動し、他人に迷惑をかけないことを念頭におくのは当然のことです。このため、JHFは東京海上日動火災保険株式会社と契約をし、皆さんがフライヤー会員登録をすると自動的に第三者賠償責任保険に加入できるようにしています。

これは「あなた個人のハンググライダー、パラグライダーでの操作あるいは飛行に起因する事故で、他人の身体に傷害または財物に破壊等を与えた場合」の賠償のための保険です。被害者に対する法律上の賠償責任として支払わねばならない治療費や修理代金等をサポートしてもらえます。

請求できない免責は……

☐故意に起こした事故

☐あなたが所有、使用または管理する財物の損害事故

☐同居している親族にあたえた事故

☐あなたの職務遂行に直接起因する事故

……などで、ご自身の怪我の治療費なども、もちろん請求できません。

他の賠償保険加入の確認を！

人身事故や社会インフラに大きな影響を与える事故の高額保険金支払いによって保険料が値上げされたこともあり、2010年1月に会費値上げをせざるをえなくなり、会員の皆さんにも大きな負担をおかけしています。事故が減れば保険金支払いが減り、会費の値下げも可能になります。

逆に、今後も高額保険金支払いが続くと、保険会社から引受を拒否されることも起こります。事故を起こさないよう安全飛行に徹するのはもちろん、万一、保険を使うことになってしまったら、他の賠償保険のご加入（自動車保険や火災保険等の付帯保険契約）をご

確認ください。保険金を複数の保険で分担して出してもらうことが可能で、高額保険金支払いを避けることができます。しかし、いざというときには忘れてしまいがちです。今すぐ、ご加入の保険契約の確認をお願いします。

自他の安全を第一にフライト

2013年からの高額保険金支払いは、タンデム、フライヤー同士の人身事故等で1千万円近くになったケースがあります。ランディング等で他人の機体に損害を与えた事故の支払いは3年間で7件、約300万円でした。次いで支払いと件数で多いのはランディングで車にぶつかり損害を与えた事故で、3年間12件247万円。このほか農作物、電柱、引き込み線等の損害に対し138万円が支払われています。

いざというときに備える保険ですが、「保険に入っているから大丈夫」と考えず、自他の安全を第一に心掛けてください。

パラグライダーによる目的地直線距離301km

女子世界記録更新へ。そして挑戦は続く。

平木 啓子

2013年11月、パラグライダーによる直線飛行日本記録を21年ぶりに塗り替えた平木啓子さんが、2015年11月2日、前回と同じブラジルのキシャダから301kmで目的地直線距離の女子世界記録を更新！ そのフライトを平木さんに振り返ってもらった。

＊残念ながら、目的地直線距離の女子世界記録は12月9日に福岡聖子さん（フランス）により破られることとなった。

2015年のキシャダは、雨が少なくとても乾燥しており、そして例年よりも風が強めとのことで、「記録を狙うには絶好の条件だ！」と現地でXCツアーを企画運営するパウロから再三連絡が入り、一時は渡航を断念していたのですが、我慢できずにドタバタとブラジル行きを決め、400km超えフライトを夢見て挑戦に旅立ちました。

現地でテイクオフに立ってみると、確かに景色は例年と違い、見渡す限りの茶色の世界。すぐ目の前にある湖は30年間で初めて枯渇するという乾燥ぶりでした。風も朝から相当に強く、コンペクラス私のパラグライダーでも前進速度が10km/hを切ることがしばしばでした。

ところが、すべての条件がそううまく揃うことにはなりません。とても大切な要素・サーマルトップが低い日が多かったのです。

例年ですと、スタートは8時頃雲底1300m、地表高度が迫り上がってくる

80kmあたりに到着する11時頃には2000m近くまで上昇、といったパターンだったのですが、8時で1000m前後、12時近くなっても1500mあたりと、なかなかブレイクしてくれないのです。この低いサーマルトップでは、当然苦勞の連続です。強風に流されてちぎれちぎれになっているサーマルを丁寧に拾いながら、毎日生き残りを図りつつ進みました。ワンターンで何mも風下に流されてしまうので、最後のチャンスの地表近くのサーマルでは、ランディングポイントを目測しながらサーマルを拾いながらグライダーをコントロールしながら、本当に神経がすり減りました。

さて挑戦開始から6日目、この日は東風が強い予報が出ていましたので、出発前に西方向301km地点を目的地に宣言し、飛び立ちました。

やはりこの日も低い逆転層・ブルーサーマルに苦勞しましたが、なんとか難関の台地をクリアし、200km地点に到着しました。この頃から条件が好転、サーマルトップが2000mくらいまで押し上げられ、雲もちらほら。そして200km到着時間は意外に早い13時！ グライドなんかほとんどしないでチョコチョコサーマルを拾ってばかりだったのに、時速40kmくらいで進んでいる計算です。

これは行けそうだと、降りないよう慎重に駒を進めてセアラ州からピアウイ州へ。ピアウイの台地に乗ったら、もうそこは樂園で美味しそうな雲がそ



400kmの次の目標は500km！（左から2人目が平木さん）

こかしこに。雲底は2400mから最後は3000m超えまで上昇。まずは朝に宣言した目的地（301km）を通過し、目的地直線距離の女子世界記録を更新（これまでの記録は285.3km）。

まだまだ時間があつたのでそのままフライトを継続し、17時29分、ピアウイ州のアルト・ロンガに着陸。353km飛んで直線距離の日本記録更新にも至りました！ 10時間19分のフライトでした。ちなみに帰りは車で800km、11時間かかりました。

クロスカントリーフライトは、本当に楽しいし、色んなことが勉強になります。これからもまだまだ挑戦を続けて行きたいと思います。

2015年のフライトで400km超えはもうすぐ手が届くと確信、生涯の自分の目標を500kmフライトにアップし決めました！

＊平木さんの日本記録は日本航空協会に申請中。同協会において認定後、国際航空連盟に申請される。



記録を狙い世界各地からやってきたパイロットたち。



キシャダのテイクオフ付近。ここから記録に挑戦するの3年目だ。（写真提供：すべて平木啓子）



苦勞して到着した200km地点。このあたりから条件好転。

若山朋晴・平木啓子が日本一の栄誉を手にし!

10月9日 - 12日 茨城県 足尾山フライトエリア 報告: 競技委員長 板垣 直樹

足尾エリアでは2年ぶりのパラグライディング日本選手権が10月9日～12日の4日間で開催された。昨年は不成立で、2年越しの日本選手権者を目指し日本各地から73人、スロベニアから1人の選手が集まった。

初日は、二つの低気圧の間で高圧帯となり沈降性の逆転層もできるが、最低気温7℃・最高気温25℃、日射も強くサーマルはブルーで1400～1500m程度。タスクは、テイクオフから西に約600mにある半径6kmのビッグシリンドーEXITで真家テイクオフ▶我国山頂▶内原ジャスコ▶常陸太田ゴールの52km。

テイクオフの風は西南西で5～8m/sと強く、選手が全員テイクオフするのに2時間半もかかりスタートに間に合った選手は30名弱。スタート後に真家山に渡った選手達は順調にレースを進め、集団のトップで成山が抜け出し、ゴールまで残り20km、高度1600mからゴールに向かう。海風の影響は少なく地表には南西風が吹くと予測していたがゴール手前だけ14時過ぎに弱い東南東の風が入り、温度の下がったサーマルの無い空域をワングライドで無念の1.4kmショート。後続選手も次々とショートする中、焦らずじっくり粘ったベテランの酒井が全員の頭を越えてゴールへ。僅か300mゴールに届かなかったが、初日トップとなった。

2日目、午前中は日照もあったが午後から日照が弱まりサーマルも急激に弱まった。タスクはテイクオフから南に2.2kmのビッグシリンドーEXITスタートで烏山エリアのランディング場ゴールの47.3kmに設定。

ゲートオープン11時、直後に勢いよ

く飛び出した呉本やJostがいち早く上げ良いポジションでスタートを待つも弱まる日射にじりじりと高度を下げていく。11時45分、ほぼ日射がなくなったところでスタートしミニマム距離を越えたのは廣川と若山の二人のみ。競技は成立したが競技得点は全員0点となった。

3日目は前線を伴う低気圧の通過で雨となり競技キャンセル。

最終日の朝は薄曇りだが徐々に日射も強くなりサーマルコンディションとなる。東に1.6kmのビッグシリンドー・スタート▶サル公園▶烏山向田橋▶福原橋▶黒羽ゴールの75.7kmの厳しいタスクだ。

呉本とJostが先頭でテイクオフ。これに続き次々と飛び立つが、テイクオフ付近はオーバーキャストになって上からランディングする選手が目立つ。ほとんど粘れずに降りた選手は半数以上。リフライト選手の中に平木や岩崎、植田、上山らがいることからテイクオフ前の激渋の様子が窺える。

このタスク、スタート後は一見、北に70kmのクロスカントリーフライトの様に思えるが、烏山を越えてからの北北西にコースを変えるポイントと最終ターンポイントから北北東にコースを変える所がポイントだ。特に最後のターンポイントからゴールに向かう辺りは丘陵地帯から完全な田園の広がる平地になる。地形が変わるポイントや風の変わるポイントでは高くターンポイントをとることが定石だが……

先頭集団はほぼ団子状態でここまで来るが、最後に他の選手より頭ひとつ抜けていたJostが一人勝負をかけてタスクトップとなる。成山、呉本も勝負をかけ単独でゴールを狙うも僅かに届



「秋の空」に翻弄されながらも3本成立。



74人の選手が全国から集まり、腕を競った。

かず。一方、ゴール8km手前で今にも消えそうな弱いサーマルを粘りに粘って我慢した多賀、廣川、若山、中川の4選手がトップに30分以上遅れて執念のゴールを決めた。

優勝はスロベニアのJost Napret、そして2015年の栄えある日本選手権者は総合でトップに僅か5点及ばなかった若山。日本一の栄誉を手にした若山は今年57歳、パラ歴28年のベテランで、最も手にしたかったタイトルを獲ることができた。女子日本選手権者は平木、足尾でのV2となった。

今大会は優勝したJostだけでなく足尾エリアから20代の選手が5名参加した。彼らだけでなく今後も多くの若い選手が気軽に参加できる楽しい大会を開催したい。そして強い若者が世界選手権においても日の丸を掲げる日が来るように関係者全員で盛り立てていきたい。



オープンクラス入賞者。2位の若山が選手権獲得。



オープンクラス女子トップ3。



スポーツクラス入賞者。村田がトップに。



スポーツクラス女子トップ3。

日本選手権者から

□若山 朋晴

1990年よりJリーグ大会に参加し競技生活25年。ナショナルポイントランキング1位や世界選手権日本代表など自身の目標は達成してきましたが、日本選手権は何度も挑戦しながらあと一歩のところまで獲得できませんでした。競技を始めた時からどうしても手にしたいと願ってきたタイトル。ようやくその夢を実現する事ができました。

今回はメンタル・気力・体調・機体すべてにベストの状態での競技に臨みました。日本を代表するエリアでのビッグタスクに緊張感を切らず競技に集中できた事が良かったと思います。これからも気力・体力を充実し連覇に向けて頑張ります。

大会の準備も含め素晴らしい大会運営をしてくださいました関係者の方々に感謝します。また、一緒に戦った選手の皆さん、有難うございました、今から次の日本選手権に向けて努力していきます。そしてJリーグのレベルアップを図り、世界で戦える若い選手が育っていける環境作りに貢献したいと思います。

□平木 啓子

今回はトリッキーな条件に翻弄され、思うような飛びができずに苦しめられました。最終日も一度はぶっ飛んでしまいもはや終わりかと思いましたが、リフライトでいいタイミングにあたり弱いサーマルにしがみつながらタスク終了時間まで粘って距離を伸ばし、女子優勝することができました。ラッキーをモノにすることができた勝利です。とても嬉しいです。

ライバルがどんどん台頭してくる中、簡単に勝つことはできませんが、これからも常にトップを、女子だけではなく総合優勝も視野に入れ、いつも応援してくださっている皆様に比べられるよう益々頑張っていきたいと思っています。大会を運営してくださいました皆様、素晴らしい大会をありがとうございました。



表彰式を終えて。次の日本選手権は誰が獲る？

秋の気まぐれな天気にも翻弄された4日間だったが3本のフライトができ無事故で日本選手権の成立となった。74人の選手が誰一人怪我もせず終えたことを、選手と全てのスタッフ、関係各位に感謝し御礼申し上げます。

成績

[オープンクラス総合]

1位	Napret Jost	スロベニア	1730点
2位	若山 朋晴	静岡	1726点
3位	中川 喜昭	茨城	1698点
4位	成山 基義	大阪	1648点
5位	呉本 圭樹	茨城	1590点
6位	酒井 節夫	東京	1456点

[オープンクラス女子]

1位	平木 啓子	静岡	1273点
2位	高橋 美佳	埼玉	1070点
3位	山下 敦子	兵庫	834点

[スポーツクラス総合]

1位	村田 好彦	埼玉	1135点
2位	元山 工	福岡	1115点
3位	山本 雅史	広島	1100点

[スポーツクラス女子]

1位	高橋 美佳	埼玉	1070点
2位	山下 敦子	兵庫	834点
3位	高田 奈緒	東京	771点

パラグライディングアキュラシー日本選手権 in GETO

吉富周助、抜群の精度で二連覇。

10月10日 - 12日 岩手県 夏油高原スキー場・大台スキー場 報告:競技委員長 山谷 武繁

10月10日～12日の3日間、岩手県北上市の夏油高原スキー場をメインエリアに、近隣の大台スキー場をサブエリアに、パラグライディングアキュラシー日本選手権 in GETO が行われた。

メイン会場の夏油高原スキー場はパラグライダーフライトを常設として受け入れているスキー場ではないので、フライヤーには知られていないフライトエリアのひとつだ。イベント開催時はフライトすることができ、アキュラシーリーグの大会や、数少ない冬期間のフライトも条件付きで行うことができる。今回は地元で行われる紅葉祭りに合わせて日本選手権を開催することとなった。

また、サブ会場の大台スキー場は、夏油高原がフライトできない西風でフライトが可能で、高度差は約200m。さほど高くはないが、リッジソアリングを楽しむこ

とができ、古くから地元のハング・パラフライヤーには馴染み深いエリアである。

競技初日の気象条件では夏油高原のフライト確率が低いため、大会成立を優先し大台スキー場にて競技を開始することとなった。

R1 (ラウンド1) は古田選手、小松選手の若手2人が9cmの好スコアでリードする。しかし世界選手権6位の吉富選手が5cmと実力通りのフライトでラウンドトップ。岡選手14cm、横井選手16cmとランキング上位の常連も続いた。

R2は吉富選手3cmと安定した結果を立て続けに出し、岡選手4cm、横井選手8cmと上位陣が後を追う展開となった。世界選手権日本代表のひとり川村選手も15cmと続き、ベテラン勢が一步抜け出した。

R3では日野選手、吉富選手の両選手が0cmを叩き出した。上位4名は互いに譲らず、16cm以内のパッドスコアをキープ。吉富選手がリードするが、ひとつのミスで順位が入れ代わる接戦となった。

R4は岡選手が2cmを出し、吉富選手を追撃したが、初日合計14cmで吉富選手がリード。岡選手36cm、横井選手が54cmで続き、川村選手はR1のミスが次のラウンドで消えれば、優勝争いもできる位置に付けた。

夏油高原スキー場は宿泊施設や温泉もあり、滞在については施設内にすべてが整った環境が用意されている。期間中は紅葉祭り開催中でもあり、一般客も訪れ、大いににぎわった。

期待された競技2日目は、低い雲底によりウェイティングが続いた。午後に

なり雲底が上がり競技再開となったが、テイクオフには吹き下ろしの風が吹き、フライトできなかった。

競技最終日は、朝から予報通り吹き下ろしの強風。結局初日の4ラウンドの結果で順位が決定し、吉富選手の二連覇が決まった。女子は参加人数が規定に達せず日本選手権者は出なかったが、伊藤まり子選手が優勝し、総合でも6位に入賞した。

アキュラシー競技は誰にでもチャンスのあるシンプルな競技です。しかしシンプルな中に、風を読む力や細かなコントロール、集中力などが試されるメンタルスポーツです。これらのテクニックは日頃のグランドハンドリングで身につけることができ、それらは普段のフライトにも役立ち、安定したグライダーコントロールに生かされるでしょう。また無風や弱風での練習も増えるため、事故の多いテイクオフやランディングでの安全なフライトにも役立ちます。

アキュラシーリーグはノービスパイロットから参加できます。2016シーズンはアキュラシーにチャレンジしてみてください。

成績

[スクラッチクラス]

- 1位 吉富 周助 山梨県
- 2位 岡 芳樹 東京都
- 3位 横井 清順 静岡県
- 4位 川村 真 岩手県
- 5位 古田 岳史 埼玉県
- 6位 伊藤まり子 愛知県

[ハンディキャップクラス]

- 1位 吉富 周助 山梨県
- 2位 横井 清順 静岡県
- 3位 岡 芳樹 東京都

[チーム]

- 1位 スカイ朝霧
- 2位 東海
- 3位 Fieldjoy

日本選手権者から

□吉富 周助

日本選手権二連覇は喜びで舞い上がった。

初日の夏油高原スキー場はフォローで、大台スキー場に会場を移した。ホームであるスカイ朝霧の講習バーンに似ていると感じた。落ち着いて試合に臨め



伊藤まり子、慎重に進入。狙うはもちろん0cm。



2014年トップランカーの横井清順。



岡芳樹、追撃するも逆転ならず。



合計14cmで接戦を制した吉富周助。

た。12ラウンド戦いたかったが叶わず、この初日4ラウンドで順位が決定した。

今年のファイナルは地元スカ朝。ここでも優勝を決め年間をカッコよく締めくくりたかったが、惨敗。新たなキャンピーでの参戦。風のいかなる変化にも対応できるキャンピーコントロールを体得するには時間がかかるとしみじみ感じた。

パラを始めて11年、アキュラシーは

6年、どうしてこんなに夢中になれるのだろう。そして楽しいのだろう。この場をお借りしてパラの先生方、スタッフの皆さん、パラの仲間、関係者の皆さん、家族に感謝、ありがとうございます。

そしてアキュラシー競技の宣伝。決して派手ではない、地味だ！ メジャーじゃない、マニアックだ！ 真ん中を踏むとハッピー？と音が出るんだ！（個人的解釈）

アキュラシー始めてみませんか？



スラッチクラス入賞者。



上位チーム。スカイ朝霧圧勝。



↑女子トップ3。

選手も役員もお疲れさま！→



独走、板垣直樹五連覇!

10月31日 - 11月3日 茨城県 足尾山フライトエリア 報告:競技委員長 大澤 豊

クラスV日選は足尾エリアでの恒例となりつつある。足尾では広範囲にクロスカントリーフライトが行え、その飛行性能を存分に発揮できるポテンシャルがあるからだろう。

大会初日のタスクは、足尾TO ▶ 猿鉄塔 ▶ 燕鉄塔 ▶ 富士山 ▶ 雨引鉄塔 ▶ フラワーパーク ▶ 五差路ゴール。天気は弱い西高東低。太平洋側に前線があり雲の多い一日。風は北東3~5m/s。最低10℃、最高14℃、サーマルは一時的に出るが単発で弱かった。

ゲートオープン前はわずかに日差しもありダミーやフリーフライトのパラも上がっていた。しかしゲートオープン後に雲が厚くなって陽射しがなくなり誰も飛ばない時間が30分程続く。その後、ぽつぽつとテイクオフする選手もほとんど上がらずランディングしてしまう。ゲートクローズ30分前に残っていた選手がようやく飛び始め、何人

かが上がり第2パイロンに向かうが、ミニマム6kmを越えたのは板垣のみ。競技は成立したものの選手全員の得点が1点だった。

2日目は移動性の高気圧に覆われ、関東地方は概ね快晴。風は南東2~4m/s、最低6℃、最高18℃、サーマルは良好で雲底は1400~1500m。足尾TO ▶ イーアス筑波17kmEXITスタート ▶ 燕鉄塔 ▶ 富士山 ▶ 福原北 ▶ 大道泉橋 ▶ 富士テストコースゴールの67kmタスク。

ゲートオープンから30分程で全選手がテイクオフし、大多数の選手が上がる。12時のスタートでレース開始。八郷盆地の中は雲も良く、サーマルは良好で福原北まではスピードレース。残り32kmの平地はほとんど雲ができずサーマルも弱くなり、厳しいレグとなった。

多くのターンポイントをトップでとった板垣が単独で厳しい平地のレグ

も飛びきり、2位以下に大きく差をつけトップゴール。続くゴールは山本と塩野、クラスIの機体で(*)参加した太田が、15分遅れのスタート時間からタイムで山本・塩野を上回る。

ゴールは21人中7人、日本選手権のタスクとして気象条件、難易度共にふさわしいタスクとなった。夜は足尾エリア名物、恒例の大BBQウエルカムパーティーで大いに盛り上がった。

*滑空性能が下のクラスは上のクラスの大会に出場できる。

3日目は寒冷前線が関東から西日本にかけて午前中に通過し、雨のため競技キャンセル。

4日目は、昨日雨を降らせた前線が太平洋側に遠ざかり、変わって西からの高気圧に覆われ弱い西高東低。快晴だが昨日の雨のせいで午前中の雲は低くサーマルも弱め。最低12℃、最高21℃、露点温度11℃、雲底は最高で1250m。タスクは足尾TO ▶ 笠間駅11kmEXITスタート ▶ ホテルリムジン ▶ B0高峰 ▶ モーバラゴールの45.7km。

午前中は雲が低く、風は北西ベース。上空も強めの北西が予想される中で競技は始まった。時折前から吹くか無風のタイミングで何とか全員テイクオフするが、半数近い選手が上がらずランディングしてしまう。スタートが風上側にあったことも難易度を上げる結果となり、スタートを切った直後に降りてしまう選手も少なくなかった。そんな申しかりと上げスタートした選手は、セカンドパイロンも高くクリアし確実に距離を伸ばして行く。先頭の選手が高峰に向かう頃にコンバージェンスラインができて高峰は良く上がり、ゴールまでの18kmを高度1200mでファイナルグライド。この日も先頭は板垣が走り、2位以下に6分以上の差をつけてゴールを決めた。ゴールした5人の中にはクラスIの機体で参加した鈴木由路もいた。

11月の気象としては決して良い条件ではなかった4日間だが、選手の技術と



翼を連ねてテイクオフを待つ。撮影：杉山祥一（3点とも）



全タスクでトップの板垣直樹、競技を心から楽しんだ。



トップ3。次回、板垣六連覇を阻む選手は出るか？

機体性能の向上で3タスクが成立して、2本の競技でゴール者が出た。3本のタスク全てでトップだった板垣が、安定した強さで日本選手権・五連覇を達成した。

クラス I の機体での参加者も多くなり、大会として安定して競技が行えるようになったのは嬉しいことだ。まだまだ気象予報やタスク設定、大会運営の改善点もあるので、今後もさらに良い競技が行え、参加者が増えるように努力していきたい。

成績

1位 板垣 直樹 茨城 1,661点
2位 塩野 正光 栃木 1,442点
3位 松田 隆至 東京 1,335点

日本選手権者から

□板垣 直樹

2015年の秋、足尾エリアはJHFの三つのクラスの日本選手権を行いました。NASAのスクールとしても私自身も本当に楽しく、大変でもありました。

ハング日選は実行委員長と選手として、パラ日選は競技委員長として、Class V 日選は実行委員長と選手で参加し、全ての大会で気象予報を担当しました。気象担当としてはまだまだですが様々な条件に当たり、この経験は私にとって貴重な財産となりました。

天候にも恵まれて三つの大会が全て成立し、3連戦を締めくくる最後の大会で優勝できたのは、本当に幸運で嬉しい限りです。Class II 日選を含め通算5

連覇がかかる今回、プレッシャーなく心から楽しんで飛ぶ事ができたのが結果につながったと思います。

機体の滑空性能は進化し続け、フライト範囲は広がり、タスクもより難しくなっていきますが、素晴らしい仲間と一緒に飛びを楽しみ、競い合う事は何にも代えられない幸せな時間です。

年々この大会の参加者は増えて競技としての価値や難易度は更に上がっていくと思いますが、次回も多くの選手達と心躍るフライトができるように頑張りたいと思います。

毎回参加してくれる選手の皆さん、裏方として大会を支えてくれるスタッフ、大会を支援してくれる関係各位に心より感謝して御礼を申し上げます。

2015 FAI World Air Games

空のオリンピック、熱戦12ラウンド。

12月1日 - 12日 アラブ首長国連邦 ドバイ 報告:岡 芳樹

エアスポーツのオリンピックと称されるワールド・エアゲームズ (WAG) が12月1日から12日までアラブ首長国連邦 (UAE) のドバイで開催され、世界中の55ヶ国から800人を超すアスリートが集まった。日本からは、パラグライディングアキュラシーの私と、模型の1チーム、そして熱気球の5チームで、総勢25名が参加した。

11月30日、団長の小柳さん (日本航空協会)、熱気球チーム全員とともに、本部が置かれているスカイダイブドバイ (東京でいえばお台場のような場所にスカイダイビング用のランウェイとランディングが整備された、正にスカイダイビングのための施設) で無事レジストレーションを済ませ、ネームタグと、リストバンド (これがないとあらゆる催し物に参加できず、スカイダイブドバイで提供され

る昼食にもありつけない) を受け取る。ちなみに、大会の参加費用 (UAEに入国してから出国するまでの宿泊・食事) は主催者もちで、選手としてはUAEまでの往復航空券代だけの負担である。熱気球は機材の運搬費用も主催者もちのこと。聞いたところでは今回の大会開催にかかった費用は50億円ほどらしい。UAEだからできたのではと思う。今後WAGを開催するところが出てくれるの? といらぬ心配をしてしまう。

今回ハンググライディングの種目は無く、パラグライディングでは、私の参加したアキュラシーと、アクロ (ソロとシンクロ)、それにパラモーターの3種目が開催された。

アキュラシーの会場は、世界一高級と言われているブージ・アル・アラブホテルの南5kmほど。ビーチ奥の300m

四方の砂地でウインチロープにより競技が行われた。風は、朝方が陸風で10時頃から海風になるパターン。強さはほぼ無風からサーマル交じりで5m/sくらい。

12月1日はトレーニングフライトで2本飛び、終了。サーマルが無ければ狙いやすいエリアだ。

2日から競技フライトスタート。朝早く会場に着くと、何と本物の芝が30m四方の面積に敷き詰められており、その真ん中にパッドが設置されていた。これには選手全員びっくり。1本トレーニングで飛び、引き続き本番フライトが、国際ランキングWPRSの逆順でスタート。1本目のフライトは大事なのだが、私はパッドを外し29cmのショート。7人が15cm以下なので出遅れた感じ。

続いて1本目の成績の逆順で2本目をスタート (今回はラウンド毎にソート



参加国。55の国から800人以上が参加した。



日本選手団。熱気球チームとレジストレーションに。



花火も上がり豪華絢爛の開会式。

してスタート順を入れ替えるシステムを採用)。私の番が回ってきたところで時間切れとなり、あとは明日に持ち越しとなる。サーマルも出ていたので、ラッキーな感じ。

翌3日も絶好のコンディションで幕開け。トップの私は1cm。2本目は14人が15cm以下。さすが。引き続き第3ラウンドスタート。私は0cm！ またしても14人が15cm以下。第4ラウンドの途中まで進んだ頃から風向きが変わり、ウインチの場所を入れ替える。サーマルが出始め、私は14cm。11人が15cm以下。サーマルコンディションで第5ラウンドが行われ、私は高めから落とし込んで何とか5cm。何と15人が5cm以下と、すごい戦いに。ここで最悪のラウンドを消すことができ、本来のスクラッチ状態になる。私は合計20ポイントで9位。1位には7ポイントで、中国のマーチャンとセルビアのゴラン。3位には9ポイントでスロベニアのマチアスとルーマニアのジョージが付けている。

4日も同じようなコンディションのなか3ラウンドが終了し、第8ラウンド終了。私は41ポイントで同点のタイ女子の



PGアキュラシーはトーイングで離陸。

ナナパットと10位。トップは14ポイントでマチアス、2位は15ポイントでジョージ、3位は20ポイントの同スコアでマーチャンとマケドニアのマーチンがつける。

競技は毎日順調に進み、5日に何と4ラウンドをこなし、ついにマックス12ラウンドで、予定していた日程を使うことなく、WAG競技が終了した。

結果は、最終ラウンドで、信じられ

ないようなミスをチェックのトーマスとマチアスがおかし、1位には23ポイントのジョージ（全ラウンドで0～4cm！）、2位に29ポイントのマーチャン、3位に30ポイントのゴランとなり、私は79ポイントで9位となった。また、ジョージは連続5cm以下の記録を11本とし、これまでの世界記録8本を更新し、素晴らしいWAGが終了した。

成績

- 1位 COTET George
ルーマニア 23ポイント
- 2位 MA Qiang 中国 29ポイント
- 3位 DJURKOVIC Goran
セルビア 30ポイント
- 4位 TZVETANOV Valery
ブルガリア 40ポイント
- 5位 JOVANOSKI Martin
マケドニア 44ポイント
- 6位 FERARIC Matjaz
スロベニア 47ポイント
- 7位 RAJASA Darumaka
インドネシア 48ポイント
- 8位 LEANGAIEM Tanapat
タイ 55ポイント
- 9位 岡 芳樹 日本 79ポイント
- 10位 PHUCHONG Nunnapat
タイ 120ポイント



華やかなPGアクロの競技（シンクロ）。



パラモーター（動力付きPG）の競技。



岡芳樹、0cmをめざしてテイクオフ。



表彰式。12本で79ポイント、9位でした。



プロベラ機の曲技飛行。翼の上でポーズを決める。



こちらはスカイダイビングのアキュラシー競技。



早朝の摩天楼と熱気球。幻想的な眺めだ。

2015年ランキング王者決定!

リーグ戦を勝ち抜いたパイロットたち／2015年ハンググライディング競技を振り返って

12月31日で2015年競技シーズンが終わり、ハンググライディング、パラグライディング、それぞれのリーグ戦のランキングが決まりました。年間チャンピオンとなった皆さん、おめでとうございます。また、大会の企画運営にあたられた皆さん、お疲れさまでした。(アキュラシー以外のパラグライディングジャパンリーグは次号に掲載。)

ハンググライディングシリーズ

[総合]

1位	大門 浩二	茨城	4816
2位	田中 元気	東京	4757
3位	鈴木 博司	岐阜	4572
4位	加藤 実	愛知	4451
5位	板垣 直樹	茨城	4362
6位	松田 晃明	岐阜	4269

[女子]

1位	磯本 容子	和歌山	3144
2位	鈴木 皓子	大阪	2868
3位	野尻 知里	茨城	2652

[世界戦選抜総合]

1位	田中 元気	東京	232.64
2位	加藤 実	愛知	228.96
3位	鈴木 博司	岐阜	227.86
4位	大門 浩二	茨城	225.82
5位	板垣 直樹	茨城	208.54
6位	砂間 隆司	鳥取	206.09

[世界戦選抜女子]

1位	磯本 容子	和歌山	133.24
2位	鈴木 皓子	大阪	125.00
3位	野尻 知里	茨城	102.26



総合1位
大門 浩二

2015年もハングシリーズの年間チャンピオンを獲得できたこと、とても嬉しく思います。

2015年は総合順位より、各タスクにおいて常にタスクトップを狙うように心がけていました(あつ、池田山カップだけは別です)。というのも、次の世界選手権のための練習として捉え、他人を余り意識せず、一人でフライトする状況下でもその日のタスクにあったベストなフライトでトップを取れるようにすることが、自分の競技能力を上げるうえで最も重要なことだと考えていたからです。

優勝は賞金の懸かった池田山だけでしたが、タスクトップを取れたときにはダントツの得点を取れたこともあったので、HGS年間チャンピオンになったのだと思います。

いよいよ今年は、2017年ブラジル世界選手権のプレ大会の年です。プレ大会を本戦と捉えてすべての準備を進め結果を出すのが、世界選手権での本場の意味での優勝を狙うことにつながると確信しています。2016年度の国内大会もすべては世界選手権のための練習フライトとして更なる飛躍を狙いたいと思います。



女子1位
磯本 容子

2015年は国内大会だけでなく、オーストラリアでの1大会、ヨーロッパでの5大会にも参加し、自分自身のハングの世界に広がりを感じる充実した年となりました。

特に単独での約2ヶ月のヨーロッパ連戦は、あらゆる意味で厳しく、ハイリスクを感じました。しかし、厳しい環境に身を置き集中した状況下だったからだと思うのですが、ほんの僅かですが未体験ゾーンとも言える不思議な感覚の中、鮮明に記憶に残るフライトを経験しました。

ただいま、オーストラリア、アメリカ、ヨーロッパ、ブラジルと、2016年の海外競技参加先を思案中です。

これからも精一杯ベストを尽くし、フライトのクオリティを上げ結果が残せるよう、この競技スタイルを継続し、更に充実させて行きたいと思います。

パラグライディング アキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位	岡 芳樹	東京	164.9
2位	和田 浩二	静岡	148.0
3位	横井 清順	静岡	142.4
4位	吉富 周助	山梨	131.3
5位	川村 眞	岩手	115.0

2015シーズンの競技を振り返って

ハングシリーズとして2015年は良く飛べた年だったと言える。6戦、16本のタスクが行われ、シリーズ参加者が94人に増えた事は嬉しい限りだ。

若手の活躍も見られ日本選手権者に32歳の田中、20代ではシリーズ6位に松田、12位に小椋、18位太陽、20位馬場、29位前田と5人の選手がシード圏内にランクインしている。機体の高性能化やマテリアルの進化、円安に伴う機体価格の上昇等、厳しい中での若手増加は頼もしく、彼らの

努力に頭が下がる思いだ。

2年連続で大門が1位と安定した強さを見せるなど、ベテラン上位陣も健在だ。

女子では一昨年の野尻のAシード入りのような目覚ましい活躍は見られなかったが、1位の磯本は国内外の競技に積極的に参加し今後の活躍が期待できる。

世界選抜ランキングを見るとトップ10に20代から60代の外村まで幅広い年代の選手が顔を並べ、層の

厚さが伺える。

競技委員会は毎年、国際的なルールと国内の条件に合わせたルール作りをし、競技の公平化等の整備を目指すと同時に、ハング人口、競技人口の増加を目標に活動しています。また、競技のレベルアップを図り、女子選手や若手選手の育成も行っています。

ぜひ、2016年も楽しく安全に競技参加してほしい。

ハンググライディング競技委員長 板垣 直樹

6位	日野 政浩	宮城	103.4
[スクラッチクラス女子]			
1位	伊藤まり子	愛知	97.8
2位	内田 薫	埼玉	44.5
3位	菊田 久美	宮城	13.0
[ハンディキャップクラス総合]			
1位	和田 浩二	静岡	168.5
2位	岡 芳樹	東京	150.4
3位	横井 清順	静岡	137.1
4位	川村 眞	岩手	110.3
5位	吉富 周助	山梨	109.2
5位	日野 政浩	宮城	109.2
[ハンディキャップクラス女子]			
1位	伊藤まり子	愛知	101.0
2位	内田 薫	埼玉	33.1
3位	菊田 久美	宮城	16.7
[チーム]			
1位	東海		35.0
2位	Mons		23.0
3位	スカイ朝霧		19.0



**スクラッチクラス
総合1位 岡 芳樹**

リーグチャンピオンになったことは嬉しくないと言えそうですが、日本選手権の振り返りを狙っていたので、それが実現できなかったことの方が大きいです。

最も強敵であった水野選手が昨年他界されてしまったためリーグチャンピオンになったと思います。成績を見ても、最終戦までは何とか平均スコアが11cmとパッド内に収まりましたが、地元である朝霧の最終戦で平均77cmを出してしまうなど不甲斐ない終わり方でもあったので納得はしていません。

これから若手の台頭を期待し、良い戦いを続けながら、2016年は納得のいく結果を出したいと思います。



**スクラッチクラス
女子1位 伊藤まり子**

2015年リーグ女子優勝という結果ではありますが、初戦で女子優勝している良きライバルのKさんが、練習中の怪我で何戦か参加できず、日本選手権でも規程に足りず女子の部が成立しないほど少ない人数での争いでしたので、素直に喜んで良いものか…

夏の世界選手権では、チームリーダーと監督の戦略が認められず、悔しい思いをしましたが、この経験のおかげで本気で狙いたいものが見つかり、メンタル面でステップアップができたと思っています。

次の目標に向かって、これからも自分らしくアキュラシー競技を楽しみます。

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー(補助動力技能証/MPG技能証課程)]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにさせていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円(送料別)。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影し

たものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプロートによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み10枚毎に2枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所変更届けのお願い

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhfhangpara.or.jp

http://jhfhangpara.or.jp/

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、山梨県在住の方には神奈川県ハング・パラグライディング連盟、山梨県フライヤー連盟からのお知らせも同封しています。

東日本大震災被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート212号

発行日:2016年(平成28年)1月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社